

問 公共交通空白地域を解消するための今後の取り組みは

答 それぞれの地域が抱える事情や立地条件等を考慮し、利用者のニーズを十分把握することでの地域に最も適した交通手段の確保に努める

基本目標4「豊かな心と文化を育むまちづくり」について

問 大湯環状列石について、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録実現に向け、その価値と魅力を世界に発信するとのことだが、世界遺産登録に向けた現地審査への対策について伺う。

答 これまで、縄文遺跡群世界遺産登録推進本部が中心となり、イコモスの現地審査を想定したリハースルを実施しており、遺跡の価値の説明の仕方などについて、課題の洗い出しと改善策の検討を行いながら準備を重ね、新年度においても、審査本番に向けて事前リハースルを行っている。

い、万全の態勢で臨む。

また、イギリスで本年9月から来年8月まで開催されるストーンヘンジ企画展への出席については、縄文遺跡群を世界に直接アピールし、認知度の向上を図る絶好の機会と捉えている。本市からは坪型土器など7点を出展するが、推進本部ではこれを海外プロモーション事業と位置付け、構成する遺跡のパネル展示・映像放映・リフレットの配布などを行う予定としており、来年のユネスコ世界遺産委員会の審査に向けて、大きく弾みをつけたいと考えている。

質問した項目（以下の基本目標は、6次総定期基本計画における基本目標別計画を示す）

■基本目標1「活力や賑わいを生むまちづくり」について
■基本目標2「誰もが生き生きと暮らせるまちづくり」について
■基本目標3「安心して住み続けられるまちづくり」について
■基本目標4「豊かな心と文化を育むまちづくり」について
■基本目標5「参加と連携を促進するまちづくり」について
■教育執行方針について



録画配信はこちらから

問 男性高齢者の自殺対策について伺う

答 生活環境の変化等で社会からの喪失感や孤立を感じる傾向があることから、集いの場やいこいの場を提
供し、また、参加しやすい環境づくりを進めていく

人口減少対策について

問 不妊・不育治療の補助金の受給年齢を引き上げることとはできないか。また、市内に専門医がいないことから、治療を受ける方に旅費の補助ができませんか。

答 市独自で実施している一般不妊治療と不育症治療の助成は、年齢制限を設けていないが、国の制度である特定不妊治療費の助成は医学的知見から対象年齢が43歳未満となっており、市独自で引き上げるとは考えていない。

問 大湯環状列石の遺跡を分断している県道について、県とどのような協議を行ったか伺う。

答 遺跡群の中央を通る県道について、今後の将来的に移設する方向で進めており、今後のイコモスによる現地審査においても将来的に遺跡環境の保全について十分に説明しながら理解を求めていく。



録画配信はこちらから

(政党)
立憲民主党
(吉村アイ議員)

質問した項目

■人口減少対策について
■福祉の充実について
■世界遺産のまちづくりについて

問 市独自で実施している一般不妊治療と不育症治療の助成は、年齢制限を設けていないが、国の制度である特定不妊治療費の助成は医学的知見から対象年齢が43歳未満となっており、市独自で引き上げるとは考えていない。

答 遺跡群の中央を通る県道について、今後の将来的に移設する方向で進めており、今後のイコモスによる現地審査においても将来的に遺跡環境の保全について十分に説明しながら理解を求めていく。

代表質問 誠心会



(会派)
誠心会
(倉岡 誠議員)

代表質問 立憲民主党



(政党)
立憲民主党
(吉村アイ議員)

また、特定不妊治療は県外に通院される方が多く、経